

平成 30 年度

神在横畠遺跡第 2 次調査現地説明会資料



I 区石製紡錘車出土状況

日時 平成 30 年 7 月 7 日（土）10:00～

場所 糸島市神在 430 番地ほか（旧赤坂旅館跡地）

糸島市教育委員会

1. はじめに

神在横畠遺跡第2次調査の発掘調査は宅地造成に伴うもので、道路予定地部分を対象としました。なお、1997（平成9）年には第1次調査が行なわれています。

2. 神在横畠遺跡第1次調査について

第1次調査では主に古墳時代～奈良時代の遺構・遺物が確認されており、主な遺構としては竪穴住居や掘立柱建物などがあります。さらに横畠古墳が当時、新たに発見されています。また本遺跡の東側には国指定史跡の釜塚古墳も存在しています。

・横畠古墳について

直径23mほどの円墳と推定されます。墳丘は削平され、周溝の一部が残存するのみでした。しかしながら、周溝埋土から埴輪が出土しており、釜塚古墳より後出の古墳であることが判明しています。

また釜塚古墳が古加布里湾に面しているのに対して、横畠古墳は釜塚古墳より奥まった地点に存在することから、釜塚古墳に対して従的存在であったと推測されています。

・釜塚古墳について

直径約56m、高さ約10mの円墳です。現在は開墾のため5段になっていますが、本来は3段築成であった可能性があります。周濠からは木製の埴輪（石見型木製品）が出土しています。木製埴輪は近畿地方で主に出土するもので、釜塚古墳の被葬者と近畿のヤマト政権とのつながりを示す資料です。なお、釜塚古墳はこれまで3回にわたる調査が行なわれており、1982（昭和57）年に国指定史跡となっています。

3. 第2次調査の概要

時代：古墳時代後期～奈良時代

主な遺構：柱穴、土坑、鍛冶関係遺構

主な遺物：須恵器、土師器、鉄滓、石製紡錘車

4. 主な成果

- ・鍛冶炉と考えられる焼土坑を検出しました。南東側には焼土坑に関係すると推測される鉄滓が検出されています。
- ・地山に造成面を作製しています。この造成面で焼土坑（鍛冶炉）が検出されました。
- ・糸島地域では大変珍しい線刻の施された石製紡錘車（古墳時代後期）が出土しました。

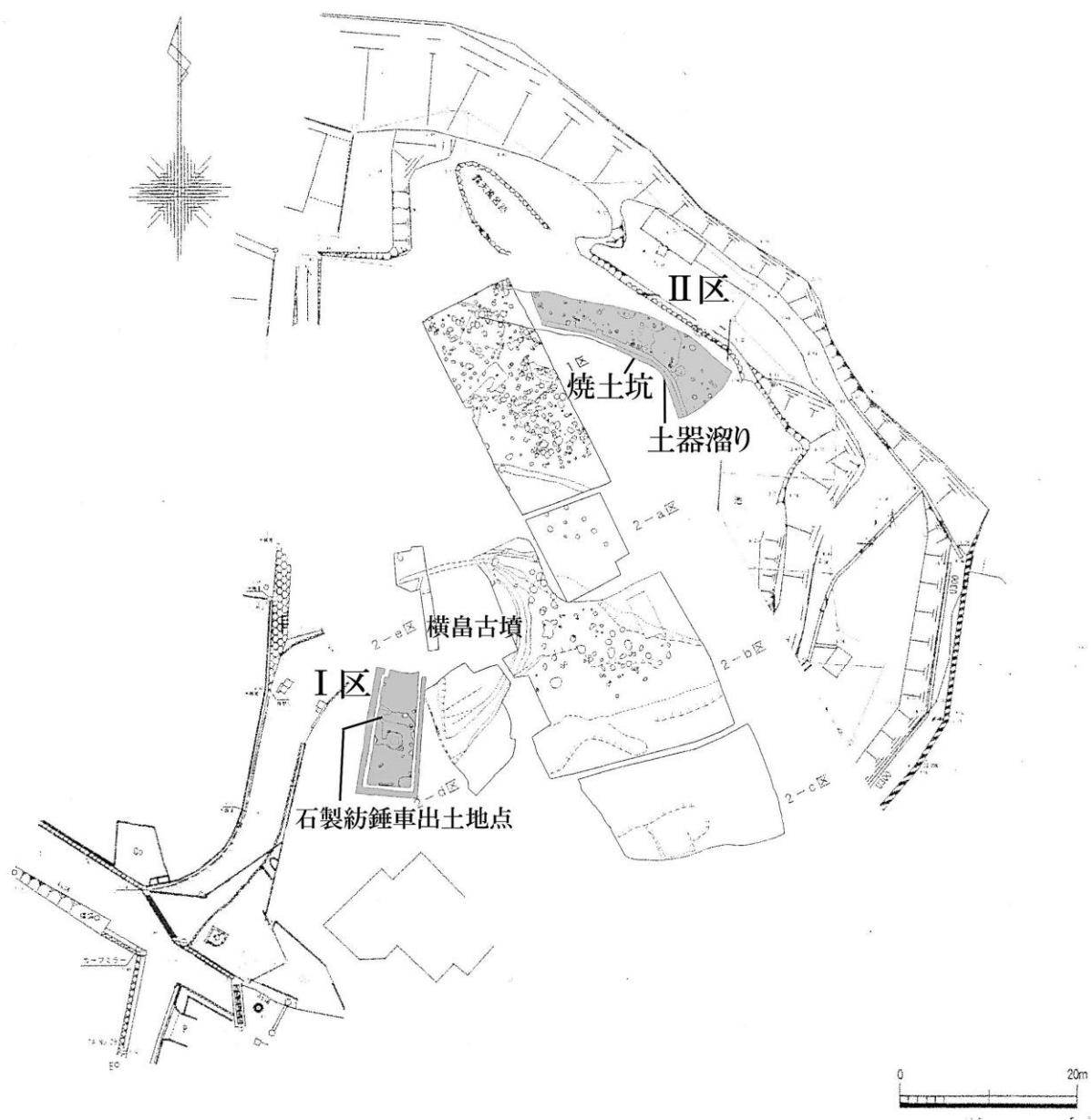


図1 神在横畠遺跡第1・2次調査全体図

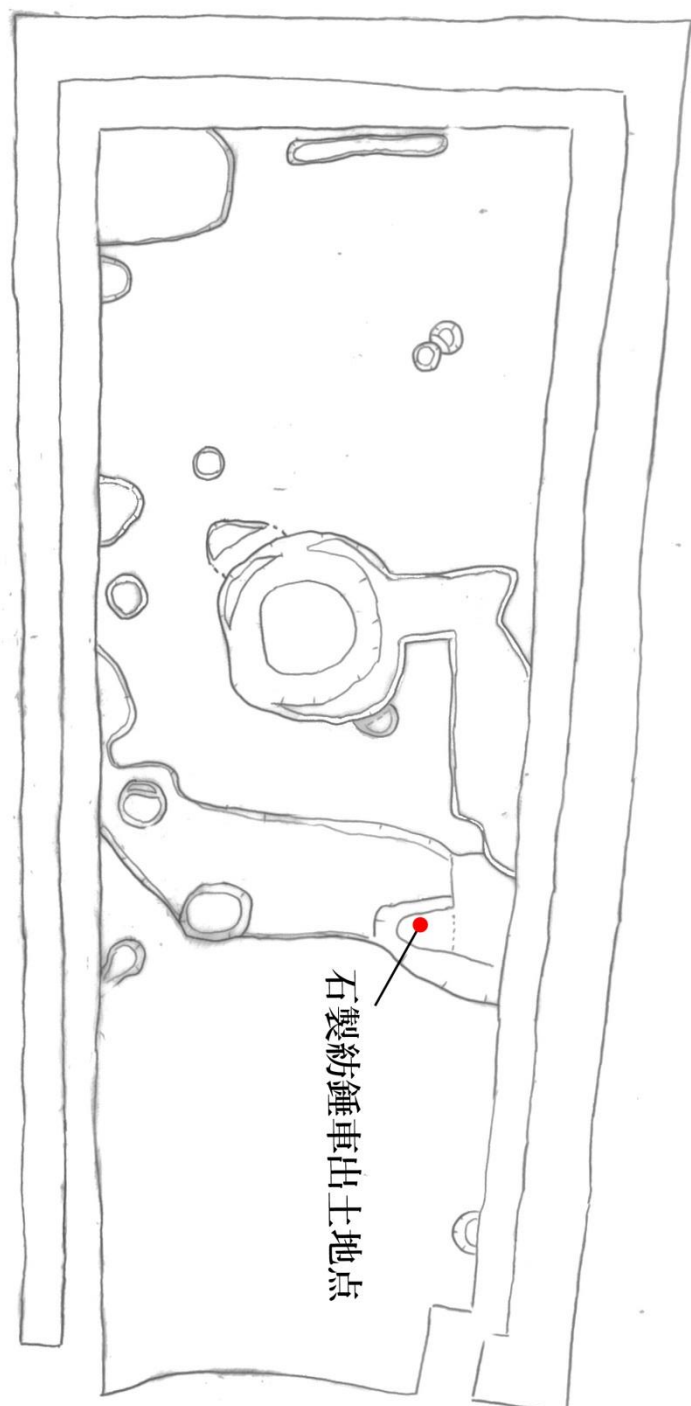


図 2 第2次調査 I 区全体図 (1 / 50)

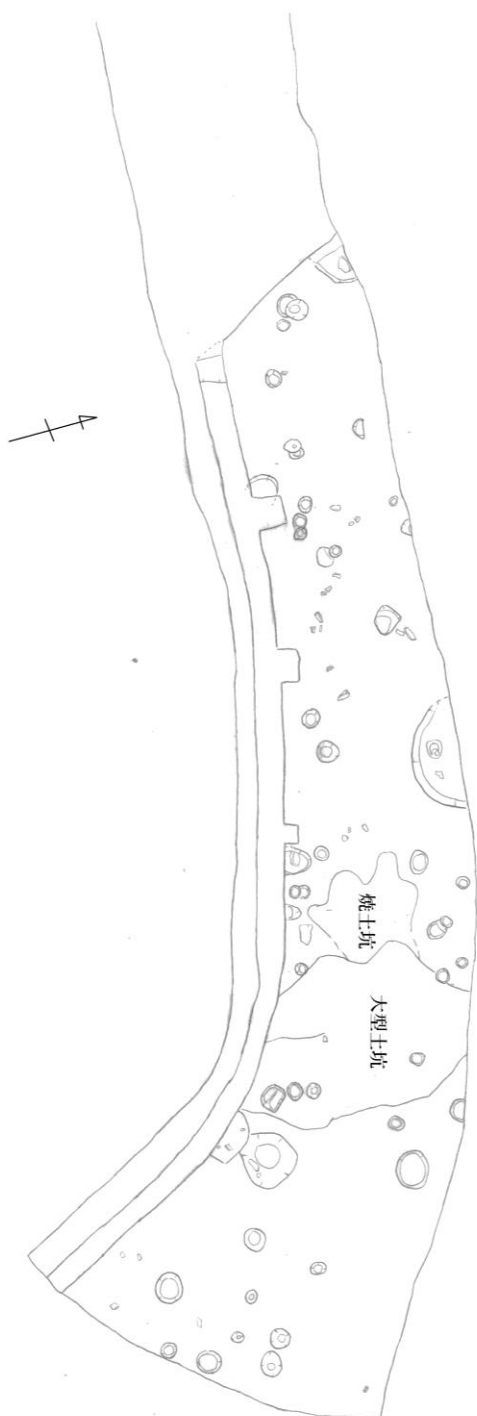


图 3 第 2 次调查 II 区全体图 (1 / 1 0 0)



写真1 I区石製紡錘車出土状況



写真2 II区土器溜り全景



写真3 II区土器溜り土器出土状況



写真4 II区焼土坑全景



写真6 神在横畠遺跡第1次調査1区全景（可也山を望む）



写真7 神在横畠遺跡第1次調査2区全景



写真8 横畠古墳周溝埴輪出土状況



写真9 横畠古墳出土円筒埴輪（左）朝顔形埴輪（右）

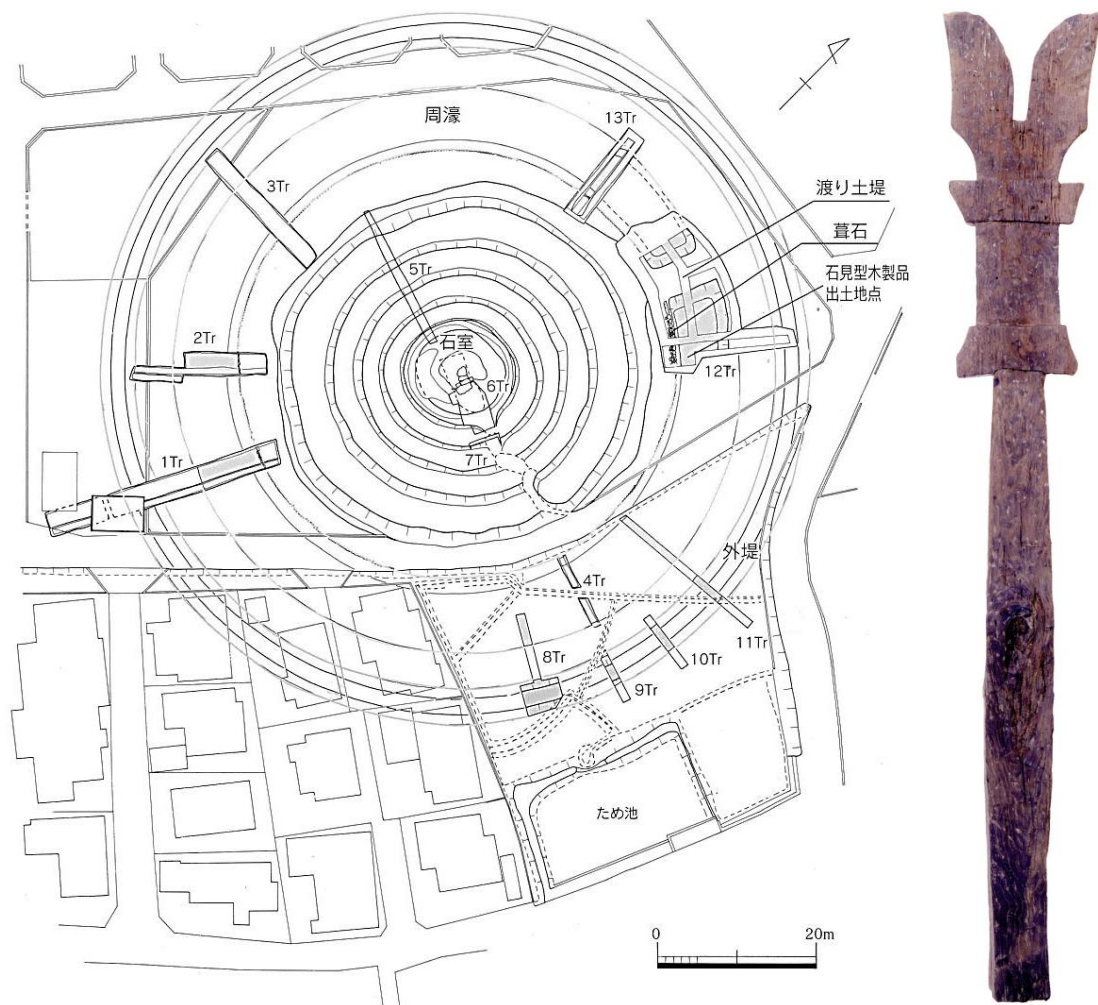


図2 釜塚古墳の調査地点および周濠、外堤範囲想定図（左）、石見型木製品（右）